

加美町

藥菜神社三輪流神樂



やくらいじんじゃみわりゅうかぐら

薬菜神社三輪流神楽は薬菜山を臨む東麗に鎮座する薬菜神社里宮に伝わる神楽で、宮城県指定無形民俗文化財に指定されています。中世神話の面影を残したセリフや、能風のすり足、修験の手印を織り交ぜた優雅な舞いが特徴で、県内でも特に古風で類例が少ないことから「異伝の法印神楽」とも呼ばれています。



中世には奥州探題大崎氏の保護を受けており、大崎氏より奉納されたと伝わる面は今日も大切に使用されています。大崎氏の滅亡後は修験者が神楽奉納の役目を担い、天和3年(1683)に仙台藩4代藩主伊達綱村の命を受けて、伊達家の氏



神である亀岡八幡宮に神楽を伝承しました。また、翌年には塩竈神社での奉納記録が残っていることから、仙台藩の代表的な神楽として重要視されていたことがわかります。

春、秋の大祭と2年に1度の夏の篝火神楽かがりびで奉納されており、町内外から多くの人々が訪れています。